



Japan Optometric Association News

# 公益社団法人 日本眼鏡技術者協会会報

編集発行 「認定眼鏡士®」を認定・教育する唯一の公益社団法人  
公益社団法人 日本眼鏡技術者協会

発行人 津田節哉 編集人 辻 戦三

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原1-2-6 新大阪橋本ビル9F

TEL 06-4807-5070 FAX 06-4807-5009 <http://www.megane-joa.or.jp>

E-Mail [joa@maple.ocn.ne.jp](mailto:joa@maple.ocn.ne.jp)

Vol.  
**151**  
JOA News 2016年10月号

## CONTENTS

### ●巻頭言

- 「総務部長をお引き受けして」……………鈴木 利夫総務部長……………2  
「財務部長就任にあたって」……………平岩 幸一財務部長……………3  
「同世代の方とともに本協会の発展を目指します」……………亀井 正美会員組織部長……………4

### ●誌上眼鏡学 連載3

- インディビジュアルレンズを取り扱うために注意すべき点……………内田 豪専任講師……………5

### ●議事報告

- 第6回通常総会 津田会長留任・新役員決まる……………8  
新理事紹介……………10  
カメラアイ……………11  
理事会 熊本・大分地震被災会員に見舞い、総会議案を確認……………12

### ●2015年度卒業研究論文〈要約〉

- 私の器械近視について……………日本眼鏡技術専門学校 柴田 明日香……………14  
深視力に影響を及ぼす乱視の補正状態についての考察……………キクチ眼鏡専門学校 中島 功人……………16

### ●消費者の眼鏡相談……………17

### ●日本眼鏡学会・第20回年次セミナー「これからの視生活の可能性」……………18

### ●ブロック会議……………19

### ●教育部・組織活性化特別委員会・ 編集後記……………20





## 総務部長をお引き受けして

公益社団法人 日本眼鏡技術者協会 副会長  
総務部長 鈴木 利夫

昨年、本協会は 50 周年を迎えました。

2016 年（平成 28 年）9 月末現在、会員総数 5,824 名、認定眼鏡士登録者 6,723 名であります。

監督官庁である内閣府は「認定眼鏡士」に関係する生涯教育事業、認定眼鏡士登録管理事業について、公益性の高い活動であると認識され、好印象を持っていただいております。我々の将来を考えると、超高齢社会を迎え、近年どの団体でも会員減少の問題に悩まされています。2010 年（平成 22 年）3 月末現在、会員総数 7,179 名が今年の 3 月末には 6,019 名となり、1,160 名が減少しています。

この流れを止める担い手の一人になれば幸いです。

この度、総務部部長を仰せ付け頂いて全国認定眼鏡士 7,000 名を超えるまとめ役になってうまく舵取りができるかどうか、皆様に応援をいただき、また事務局の皆様にご協力をお願いして業務を遂行していきたいと思っております。そして全体の事務を司ることを念頭に置いて、事務局と連絡を取り合って努力する所存でございます。

顧みれば今、認定眼鏡士に与えられた重要な過渡期を迎えております。毎年の事業計画にありますように各部門の業務は大変な事業活動をいたしております。なかでも教育は全国一円で生涯教育講習会活動が行われています。この活動は眼鏡販売に実を結ばなければなりません。

近年では技術者数が年々減少しています。何が原因でしょうか。高齢化がすすんでいます、跡継ぎがない。眼鏡学校の生徒数も然りです。将来に対する不安材料にことかきません。打開策がないのか自然的な現象だとあきらめていませんか、ひとつ思うことですが、幸い、近畿には長年にわたり続いている近畿眼鏡協議会を府県輪番制で年 3 回開催しています。京都地区開催時は本協会近畿ブロック会議と合同会議を実施、お互いに議論するテーマを持ち寄り、前回は財務の見地から協会運営について、今、本協

会のすべき役割は、将来性は、接客に対する問題などを始め日頃の眼鏡販売について、口角泡を飛ばして切磋琢磨しています。近畿圏だけに気心が知れているので言いたいことが気軽に発言できます。簡単なことではないかもしれませんがそこから販売向上のアイデアをみいだしています。

そこで我が業界に目を向けますと消費が落ち込んで景気が低迷しています。また、相変わらず誇大広告が目につきます。メガネは言うまでもなく価格が安ければよいというものではありません。精密な加工技術が求められます。我々の PR が不足しているのか、相変わらず無頓着に買った眼鏡を掛けている方を多くみかけます。毎年 10 月に行なわれる「メガネの日、目の愛護デー」に一般市民のメガネの相談を行っております。その時一番多いのは、このメガネが合っているかどうか見てほしいという相談です。そのメガネを調べてみますと、多くの方が間違ったメガネを掛けています。技術の大切なことを説明しコツコツと地味な努力が必要です。すべき役割、将来性について議論を重ね、ステータスをしっかり確保しなければなりません。眼鏡士国家資格を早く進めて、眼鏡業界に早く光が差し込むよう願っています。



## 財務部長就任にあたって

公益社団法人 日本眼鏡技術者協会 副会長  
財務部長 平岩 幸一

この度、財務部長を拝命しました愛知県支部長の平岩と申します。財務関係は全く未知な分野で戸惑っていますが、本協会の事業運営にとりましては大切な仕事ですので、是非とも皆様のご理解とご協力を頂き務めさせていただきたいと考えている次第です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

また現在、進行中であります眼鏡技術者の資格問題については、厚生労働省が主管する『技能検定』を軸に検討されているようですが、私たち眼鏡技術者及び本協会会員にとって非常に重要な問題であります。眼鏡業界挙げて一致結束して対応したいと考えるものです。

昨年度までの小生の仕事は会員組織部の副部長で組織活性化特別委員長として4年間ほど若手の理事さん方と共に本協会の組織活性化を目指し、そのために女性層と青年層の声を可能な限り反映させようと委員会で検討してまいりました。年間数回の委員会での活発な討議を経て提案を理事会に提出、承認を経て女性・青年層に向けての特別講習会の開催、女性部会、青年部会の立ち上げ、Facebookの活用さらには各支部への女性層青年層の本支部役員起用の要請等をさせていただきました。やっと活性化の端緒についたというところです。活性化は不断の働きかけが大切です。

会員の皆様方が「技術者協会は自分たちの組織」との認識をいつも持ち続けていただくことこそが肝要です。今年度、活性化委員会は新たな委員を迎え委員長も変わりました。皆様の「こんなことをして欲しい」「あんなこともやってみたら」というご意見をいただければ本協会並びに委員会自体もより活性化するのではないかとお願いするばかりです。

ところで財務の話に戻りますが、前任者の中島部長の会報での明晰な分析にも垣間見えるように、公益社団法人としての組織の財務は極めて均衡的な予算の執行を監督官庁から要請されています。簡単に言えば「儲けてはいけない」また「損してはいけない」

というものです。さらに言えば事業内容ごとに均衡を強いられています。これはなかなか悩ましいことです。私たちの本業である商売はある面、儲けるためにやっているようなもので、「儲けてはいけない」即ち事業して利益を出すなどは難しい。無論、本協会の目的は教育事業であり、この事業で儲けることは至難なのですが、しかし将来のために資金を貯めておくくらいの余裕は欲しい。といってもそれは許されないのです。

「儲けてはいけない」というよりもむしろ「貯め込んではいけない」との表現が妥当かもしれません。とは言うものの業界の停滞と会員の減少傾向はいや応なしに財政を圧迫していますし、今後の会費の増収は見込めないとなると何か収益事業もあれば手掛けたいのですが、それも許されないとなると八方塞がりになりかねないというのが本協会の財務の偽らざる現状です。

経費の削減と有効活用に努めることは無論、そのためにも本協会の目的並びに事業の重要性を十分に再認識していただき一年でも長く会員を継続していただくと共に年会費を遅滞なくお支払いいただく、さらに、若い技術者の方々にも本協会に是非とも所属していただくことを切にお願いし就任のご挨拶と致します。



## 同世代の方とともに 本協会の発展を目指します

公益社団法人 日本眼鏡技術者協会 副会長  
会員組織部長 亀井 正美

この度、中島能澄氏の退任により大阪より副会長・会員組織部長に選任されました亀井正美です。理事としては若輩者でございますがよろしくお願い致します。

昨年度までは本協会青年部会長として、これという活動は出来ていませんでしたが、本協会会員年齢分布では40代50代が最も多く、私と同年代であります。同年代という利点を生かし40代50代だけではなく若手の意見を聞けて、その意見を本協会に反映できるように出来ればと思っております。

本協会青年部会女性部会のフェイスブックグループを作っております。そのメンバーになれる青年層女性層の方は是非本協会フェイスブックグループに入ってください情報交換をしたいと思っております。

眼鏡小売業界では現在推定40,000人の人達が働いています。出来る事なら、小売業界で働いている人たちは認定された眼鏡士であるべきです。残念ながら、本協会加盟認定眼鏡士は現在6,000名前後です。もし、小売業界で働いている半数の人達が本協会の認定眼鏡士であったなら、本協会の規模は現在の3倍強になります。認定眼鏡士を生活者に知らしめる十分な財源も出てきます。

人口が日本の約半分であるイギリスの眼鏡技術者の組織である、General Optical Associationでも約30,000人の加入者の団体です。ドイツのアウゲンオプティカーの団体でも約20,000人近くの加入者がおります。韓国の眼鏡技術者の組織も約30,000人の組織です。

私達、会員組織部の任務は外国の例と同じ様に、すべての眼鏡技術者に組織を開放し、質の高い眼鏡技術者を多く育てることです。そうする事により、顧客満足度は向上し、眼鏡業界に対する信頼度が増え、業界のパイも拡大するものと考えます。

眼鏡学校に勤務しSS級認定眼鏡士試験などに携わってきて感じているのが、すでに眼鏡店に勤務して眼鏡調製に関わっている方が試験を受けに来られますが、知識の足らないところや測定や調整・加工

技術のレベルが低い方がおられるという事実。全ての方に門戸を広げる事は試験レベルを下げる手もありますが、それはしないでレベルの高い状態を維持しながら門戸を広げることを目指したいです。それには教育部との連携も必要かと考えております。

会員組織部長として全国のプロック会議に出させていただく立場になりました。私自身は大阪で生まれ育ち大阪の東端で商売をしていて大阪商人の考え方が染みついている部分もあります。大阪商人の考え方は良い部分もたくさんありますが一地域の考え方で活動するのではなく、各地の状況や実情を聞かせていただき会員増強や組織活性化（女性や若い人たちが元気に活動できる）にはどうすべきかを、フェイスブックなども使いながら皆さんとともに考えていきたいと思っております。

フェイスブックグループに入ってみようかと思えるグループにしたいと思っています。参加ご希望の方は本協会へメールしてお申し込みください。

私自身、様々な役職を受け過ぎだと批判が多いのですが、眼鏡学校の講師などの経験をふまえて全国の会員及び認定眼鏡士の皆様と交流しながら本協会副会長兼会員組織部長の職務を中心に活動していきたいと思っております。

## インディビジュアルレンズを 取り扱うために注意すべき点

公益社団法人 日本眼鏡技術者協会

専任講師 内田 豪

今回は、インディビジュアルレンズを取り扱う為に認定眼鏡士が行動すべき作戦について述べてみたいと思います。今回のキーワード

(1) インディビジュアルレンズは眼鏡士の腕の悪さをサポートしない

さて、前回までで立体感覚とコントラストの関係を述べてきました。ところで、前回の会報 (Vol 150) で金子先生がインディビジュアル眼鏡レンズに関して解説されていましたが、皆さんお読みになりましたか。

眼鏡レンズの収差改善はコントラストの改善にもつながります。収差を改善したレンズ、何やら難しい事になりましたが、インディビジュアルレンズは日本語で装用状態を考慮したレンズとも理解されていますし、装用状態で悪化した収差を補正するレンズともいえます。商品が高額であるため、何となく性能が良いとのイメージだけで販売している現場が多いようです。眼鏡作りには「測定」「フィッティ

ング」「加工」があり、一般の商品（買って直ぐに使える品の意味）と異なる流れがありますが、インディビジュアルレンズはこの流れにある全ての技量内容が商品の良し悪しに直結します。従って、腕の悪い眼鏡技術者がインディビジュアルレンズを用いて眼鏡を製作してもレンズの性能が充分に発揮されない可能性が高くなります。

図-1 は本年度の生涯教育でも説明しました、収差計（波面収差解析装置）で私の眼を分析した見え方のシミュレーションです。視力値で 1.0 のランドルト環が、どのように見えているのか、これを具体的に示したものです。視力値 1.0、このランドルト環の大きさはお解り戴いていると思いますが、図-1 からすると実際の見え方は「ぼやけて、多少上下にずれているような感じ」で判断していることが解ります。では図-2 をご覧下さい。

図-2 に示すデータは自覚屈折測定で視力値が 2.0 を得る眼の収差解析ですが、その眼で視力値

### 著作者プロフィール

#### 現 職

- ・早稲田眼鏡学校（現 東京眼鏡専門学校）で眼鏡光学・屈折検査・商品知識を中心に 19 年間教鞭を執る。
- ・大規模眼鏡専門店、小規模兼業店、眼科検査主任として勤務後、「めがね技術コンサルタント」として独立。
- ・2011 年から東京眼鏡専門学校で非常勤講師として「眼鏡店実務・測定全般」の教鞭を執る。

#### 活 動

- ・中国瀋陽何氏大学・天津医科大学・温州医学院で眼鏡技術講演
- ・AMDA モンゴル国際医療奉仕団 2010・2011 眼鏡技術講習
- ・IOFT・IMF など展示会セミナー技術講演、メーカー展示会セミナーなど

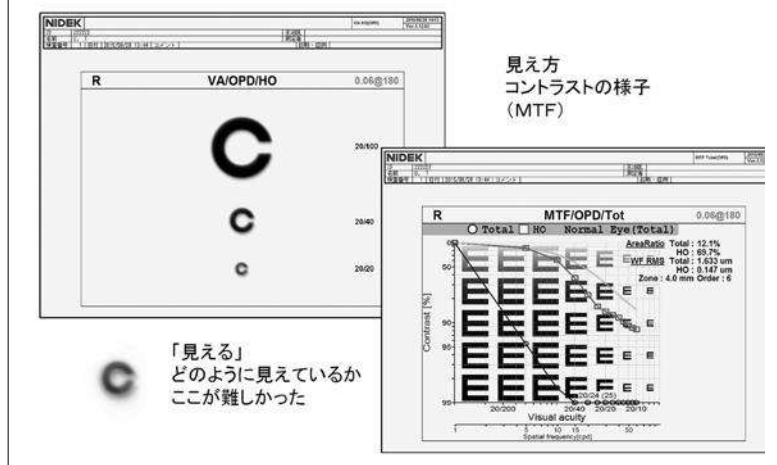
#### 主な著書・論文

- ・眼鏡学ハンドブック・生涯教育テキスト共著



図-1

## 収差解析を使って分析-1



1.0のランドルト環がどのように見えているか、これを示したものです。

明らかに図-1とは見え方が異なっていますが、ここでも多少ぼやけているように見えますね。視力標にある1.0のランドルト環、クッキリしっかり見えている訳ではなく、若干ぼやけて見えている事を示しています。我々は視力値、数値で示した値を参考に眼鏡を設計してきましたが、実際にその視力値で見える像の様子はそれぞれ異なって見えている可能性が現代の機器を使って解るようになってきました。

これからは実際にどのように見えているのか、見えている像の質を探る時代になってきたとも言えそうです。

さて、インディビジュアルレンズです。

1986年にCarl Zeiss社のゲールハード氏は「眼鏡枠の装用位置によって発生する収差まで抑制すると同時に光学性能の劣化を防ぐ複雑な形状を有するフリーフォーム設計のレンズを発明しました」ところがこの設計、眼鏡レンズの設計製造装置が追いつかず当時としては製品化が難しく、欧米（紙面の関係で省略：主としてヨーロッパの研究者）

の努力の結果、2000年にこの技術を用いた世界初のフリーフォームテクノロジーによるインディビジュアルレンズが商品化されました(Gradal Individual)。つまり、インディビジュアルレンズは今世紀になって初めて登場した全く新しいテクノロジーを用いた眼鏡レンズともいえます。

フリーフォームテクノロジーは我々に新しい可能性を与えたとも言えるでしょう。図-3は収差計を用いて得られたPSFの様子です。

PSFは本年度の生涯教育でも解説しましたが、日本語では「点広がり関数」「点像分布関数」などと呼ばれています。

図-3は今年4月にZEISS社の協力で分析した結果ですが、Aは私の眼鏡度数(旧)で得られる像です。これに対して、他覚的な測定値などを基に特殊なアルゴリズムを用いて装用値を求めた結果のPSF像がBになります。PSFは光学系の点光源に対する応答で、点光源の広がりの様子を示したものでから、この像が小さく一つ(それこそ点)になる程、良い結果となることを意味します。ただし、ここで注意すべきは「脳がこの像をどのように認識しているか」といったプロセスは考慮しません。あくまでも理論値です。

結果が示すとおり、私の眼鏡は装用値を変えるこ

図-2

## 収差解析を使って分析-2

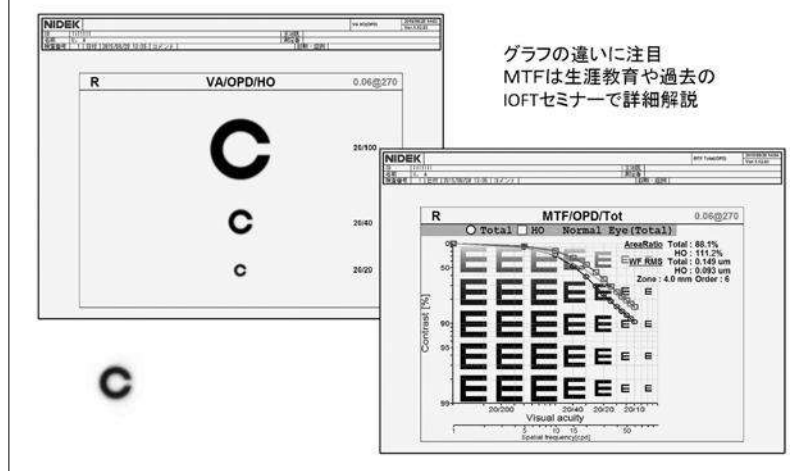
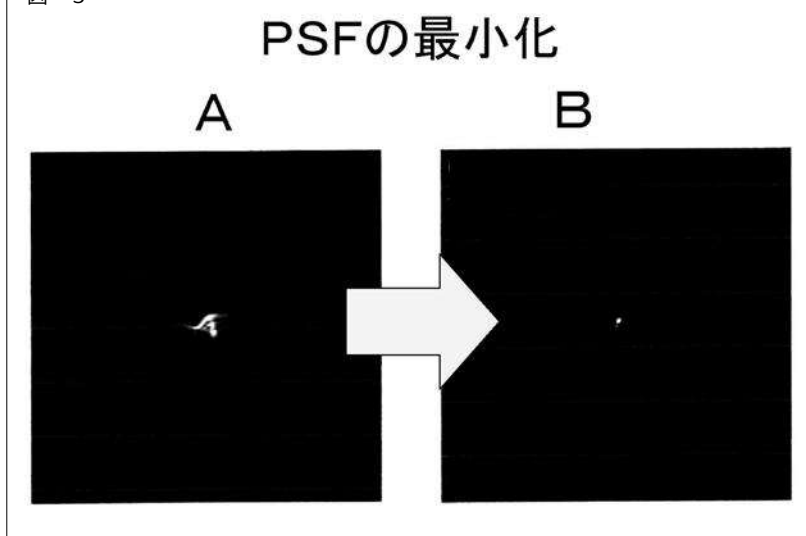


図-3



とによって点光源像がよりしっかり、クッキリ見える可能性が出ました。

レンズを変える時（新しい度数の意味）、この数値は我々が日常使用している SCAX になりますから、理解に苦勞はしません。

さて、ここで問題です。

この変化（A）から（B）ですが、視力値としての変化はどうなるのでしょうか。このあたりは難しい問題になります。我々は眼鏡の度数設定で「1.0 まで見えるように作りました」と、視力の数値で製品を提供してきた事が多かったのではないかと思います。

実際の所、私も講習会では「来店された、お客様の覚えている事は支払った金額と視力」などと乱暴な発言（反省しています）をして参りましたが、高度なテクノロジーを用いて製作されたレンズは見える像の質を改善するといえるのではないかと考えています。

収差の改善はコントラストの改善にもつながる、と冒頭に記しましたが、こうした高性能レンズ（フリーフォームテクノロジーを用いて製造）は薄暗い環境や微妙な視環境での視生活を応援してくれる可能性があります。

ところで、ここで得られたデータは測定上の結果になります。ここから、眼鏡枠にいて装用状態による変化をさらに付け加えて作り出される商品がインディビジュアルレンズになります。何やら面倒で難しい内容になりましたが、一つ言えるのは、眼鏡

レンズの性能や機能が一昔前と変わって全く新しいカテゴリーのレンズともいえる商品が登場したという事でしょう。

扱う側（我々のことです）も細心の注意が必要です。眼鏡の性能は加工やフィッティング、また枠の品質など複合的に絡み合っています。

特にフィッティングポイントの設定には（本年度の生涯教育にも登場していますが）、従来からある計測システムから、より高精度なデータが得られる方式などを検討し、レ

ンズの性能を十分に発揮させる事が大切です。フィッティング不良による眼鏡の不具合が見聞きされる昨今ですが、医療機関でもフィッティングポイントをビデオ計測システムで再検討する研究などが報告されています。

フリーフォームテクノロジーを用いた眼鏡レンズの設計製造はインディビジュアルレンズとして開花しましたが、今後はハイカーブ仕様の累進屈折力レンズなど、従来では装用に難しい眼鏡も遜色なく使用できるアイテムが増えてくると思われます。

最後にインディビジュアルレンズを扱うにあたってまとめてみましょう。

●屈折測定～加工～アイポイント設定フィッティング、全てのレベルが高くないと扱えない

●ロープレ中心の販売接客力だけに頼ることは危険な商品。

#### まとめ

1) 自覚屈折測定に自信のない方はこの際に「自店の機器操作、手法を総点検してみよう」

涯教育の実技講座でも色々と実習演習を行っています

2) ビデオ計測システムなど、展示会に出向き直接操作体験を行ってみよう

#### 次回予告

マル秘：データ提出先の了解が得られたら・・・  
両眼開放と MTF 特性の検討・・・

# 第6回 通常総会 報告

日 時／平成28年6月15日(水)  
午後2～4時  
会 場／KKR ホテル東京  
出 席／社員数110名中出席69名、  
委任状提出40名、欠席1名



通常総会の会場

## 津田会長留任・新役員決まる



あいさつする津田会長

津田節哉会長があいさつの中で、「資格制度について、推進機構ニュースや業界紙などで既にご承知かと思うが、推進機構は平成23年発足以来5年目を迎える中で、最初の3年間のロードマップが計画通りに進展せず、昨年11月の推進機構の総会で厚労省のみならず他の省庁とも折衝するという方針を決めて動き出した。最初の内は経産省も新しい国家資格を作るのは非常に難しいということで、なかなか進展しそうにはなかった。その理由としては、業務独占であろうと名称独占であろうと、資格制度をつくることは国の大方針である規制緩和に反するので、特に新しい法律を作るとは非常に難しく厚労省主管による『職業能力開発促進法』に基づく『技能検定制度』を活用する方法を提案され、現段階ではこれが選択できる唯一の方法ではないかと考えるに至った。推進機構の総会及び幹事会で承認を受け、この方針でいくことを4月28日に発表した。時計修理工資格の実態などを見ても、この方法が100点満点のものではないと考えているが、ただ現在の選択肢としてはこれしかないのではないかと考えている。資格の効能は業界の対応次第でうまく展開できると考える。

更に業界には幸いに認定眼鏡士という制度があり、7千名を超える認定眼鏡士がおられ、人数的にも組織的にも非常に力強い新しい技能検定の資格になるものと期待している。この方法を選択することを決めた背景の一つに、独自の新しい資格制度を作るとすれば、更に5年、10年、20年という長い年月を要するが、この業界にそれだけの体力があるのかということである。また、最近制定された臨床心理士の資格も恐らく20年を要してでき上がったが、この資格でさえも名称独占である。なお、公益社団法人日本眼鏡技術者協会は新しい制度ができれば、眼鏡技能士協会という名前に名称変更するかもしれないし、資格を持った人の団体としての性格がより明確に打ち出される方向に進んでいくと考えている。眼鏡学校の卒業生を認定眼鏡士の対象としているが、眼鏡学校の入学者数も認定眼鏡士の数も減ってきており、新しい資格制度ができれば現在のメンバーだけではなくて量販店、チェーン店からも資格を取得した人たちが入ってくるであろうから会員数は1万人、2万人という数字になるであろうし、新しい感覚での技術者協会に生まれ変わる必要があると考えている。最後に、事業報告、収支決算、事業計画、収支予算案とともに新しい役員の改選など重要な案件について慎重審議を」と要請した。

### 【議事経過】

- (1) 司会者山崎親一東京都支部代議員が、はじめに、この1年間に亡くなられた会員の方々のご冥福をお祈りするため黙祷を要請した。つぎに、本日の総会の定足数について、定款第18条の規程により社員総数の過半数(56名)以上の出席が必要であること、並びに本日の出席状況として、出席予定者数69名中現在69名の出席に加え委任状が40名提出されており、これを加えると合計109名となり、



司会を務める山崎代議員



議長を務める片山副会長



説明する豊福総務部長



説明する中島財務部長



監査報告する岡野監事



報告する坪内選挙管理委員



報告する辻広報部長

社員総数の過半数以上の出席となるので本総会が適法に成立することを報告し、開会した。

(2) 津田節哉会長から開会あいさつ(8ページ参照)

(3) 司会者山崎親一は、議長の選出について諮ったところ司会者一任の声があり、理事・副会長の片山敬三氏を指名し、賛成を求めたところ、全員の拍手をもって、本日の議長は片山敬三氏を選出することに決定した。

(4) 片山敬三議長は、議事録署名人に大阪府支部亀井正美、京都府支部北村東司の両氏を指名した。

議長は、第1号議案及び第2号議案双方関連があるので、一括して議題にしたいと諮り、異議なしの声あり、直ちに一括審議に入った。

### 【審議事項】

#### 第1号議案 平成27年度事業報告承認

豊福厚至総務部長が、総会資料議案1の平成27年度事業報告で会議の開催状況、各部の事業活動及び会員数などを詳細に読み上げて説明した。

#### 第2号議案 平成27年度収支決算承認の件

中島能澄財務部長が、総会資料議案2の平成27年度収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表などについて詳細に説明した。

議長は、ここで監査報告を要請した。監事は議長の要請に対して岡野雄次、佐藤良治両氏を代表して岡野雄次氏から4月20日に行った監査の結果について、いずれも正確かつ適正に執行されていることを認めたと報告した。

議長は、第1号議案、第2号議案について質疑を求めたが、特に質問意見はなく全員の拍手で承認された。続いて、第3号議案および第4号議案は関連があるため一括して審議に入った。

#### 第3号議案 平成28年度事業計画承認の件

豊福厚至総務部長が、総会資料平成28年度事業計画について詳細に説明した。

#### 第4号議案 平成28年度収支予算承認の件

中島能澄財務部長が、総会資料平成28年度収支予算について詳細に説明した。

議長は、第3号議案、第4号議案について質疑を求めたところ次の通り質疑が行われた。

(質問) 収支予算書で予算額が前年度予算対比で表記されているが、前年度実績は確定しているので前年度実績対比とした方が見易いのではないか。(回答) ご意見は分かるが前年度予算対比にも意味があるので、来年度に向けての検討課題とさせていただきたい。

(質問) 未収金について、未収金が発生せず会計処理がしやすいような方法に変更することはできないか。(回答) これはコンビニ収納代行会社での一旦預かり計算期間と、本協会への振り込み日程とのズレから生じるものであり、本協会の会計処理の変更で簡素化できるものではない。

(質問) 印刷費の比率が高いということだが、ホームページの活用などで印刷費削減の余地はないか。(回答) 組織活性化特別委員会がSNSの運用を始めているし、本協会の新しいホームページの運用も開始したので、更なる活用で印刷費削減をはかりたい。

議長は他に質問、意見がないことを確認し、第3号議案、第4号議案について承認を求めたが、特に質問意見がなく、全員の拍手で承認された。

#### 第5号議案 理事・監事選任の件

坪内登選挙管理委員から、次の通り報告が行われた。①社員(代議員)数(平成28年6月1日現在)110名②投票総数92名③有効投票数92名④無効投票数0名理事候補者



報告する福田HPプロジェクトリーダー



報告する平岩理事

25名、監事候補者2名について、候補者毎に賛成・反対・白票を集計した結果、全候補者について過半数以上の賛成票を獲得しており、各々選任されたことを報告。

議長は、選挙管理委員会の報告に対して質疑を求めたが、特に、質問・意見がなく、第5号議案は選挙管理委員会の報告通り承認され、別室において理事会を開催し、会長、副会長、部長の選任を行うので、20分間休憩することを告げた。

20分後、議長は総会を再開し、豊福厚至理事に対して理事会における会長、副会長、部長の人選について報告を求めた。(平成28、29年度理事・監事参照)

## 【報告事項】

(1) 広報部／辻戦三広報部長が、会報誌の充実や50周年記念号の発行、ステッカーやリーフレット、ミニカレンダーによる認定眼鏡士制度の普及啓蒙事業について詳細に報告した。ホームページの管理拡充について、福田吉美HPプロジェクトリーダーからリニューアルの狙いや変更後のアクセス数、問い合わせ数の増加実績などを報告した。

(2) 組織活性化特別委員会／平岩幸一組織活性化特別委員会委員長が、青年部会・女性部会主催のセミナーの計画などについて報告した。

## 平成28・29年度理事・監事

理事25名、監事2名 五十音順、敬称略 太字は担当部長



津田節哉会長



金井昭雄副会長  
兼国際部長



木方伸一郎副会長  
兼教育部長



亀井正美副会長  
兼会員組織部長



鈴木利夫副会長  
兼総務部長



平岩幸一副会長  
兼財務部長



辻戦三副会長  
兼広報部長

### ●理 事(眼鏡専門学校)

伊藤克也(キクチ眼鏡専門学校 学校長)  
岡本育三(東京眼鏡専門学校 理事長)  
西村輝和(日本眼鏡技術専門学校 理事長)

### ●理 事(会員)

相澤博彦(法制部長、東北ブロック長、宮城県)  
小野明夫(関東ブロック長、神奈川県)  
片山敬三(東京ブロック長、東京都)  
金井昭雄(北海道ブロック、北海道)  
亀井正美(新任、近畿ブロック、大阪府)  
川倉敏信(北陸ブロック、富山県)  
木方伸一郎(東海ブロック、岐阜県)  
清水信弘(九州ブロック、佐賀県)  
杉本佳菜子(推薦、東京都)  
鈴木利夫(近畿ブロック長、京都府)  
竹田保世(四国ブロック、徳島県)  
田部健二(四国ブロック長、愛媛県)  
辻 戦三(中国ブロック長、岡山県)  
津田節哉(推薦、愛知県)  
西田芳夫(北陸ブロック長、福井県)  
野口 毅(社会福祉部長、九州ブロック長、福岡県)  
羽田和弘(東北ブロック、青森県)  
平岩幸一(東海ブロック長、愛知県)  
藤原久雄(新任、関東ブロック、山梨県)  
山崎親一(東京ブロック、東京都)  
横山武志(中国ブロック、島根県)  
吉野紀子(推薦、大阪府)

### ●監 事

岡野雄次(公認会計士)  
佐藤良治(北海道ブロック長、北海道)

## 《感謝状贈呈》



豊福厚至前副会長



中島能澄前副会長

## 《講演会》



講演会の司会を務める  
木方伸一郎副会長



中島功人さん（キクチ  
眼鏡専門学校卒業生）



青山愛実さん（ワールドオ  
プティカルカレッジ卒業生）

## 《懇親会》



主催者を代表しあいさつする  
金井昭雄副会長



祝辞を述べる厚生労働省医薬・生活衛生  
局の磯部総一郎医療機器・再生医療等製  
品審査管理室長



祝辞を述べる風早昭正日本眼鏡関連  
団体協議会副代表幹事



乾杯の音頭をとる中島章眼鏡技術者国家  
資格推進機構副代表幹事



中締めの言葉を述べる白山聡一眼鏡  
技術者国家資格推進機構副代表幹事



司会を務める亀井正美青年部会長、杉本佳菜  
子、吉野紀子両女性部会長、右は懇親会場



# 理事会 報告

日 時／平成28年5月11日(水)  
午後2～4時  
会 場／ニューオーサカホテル  
出 席／理事総数25名中、出席23名、  
欠席2名。監事2名中、出席2名



理事会風景

## 熊本・大分地震被災会員に見舞い 総会議案を確認



あいさつする津田会長

津田会長があいさつの中で「まず、熊本・大分を中心とする地震災害について、現在までの情報では被害を受けられた方々は少ないとは聞いているが、被災された方々にお見舞いを申し上げる。日眼協として大規模災害対策委員会が発足したが具体的な対応基準などはまだ決まっていないようであり、本協会として内規で見舞金を出すことになっているが、日眼協と歩調を合わせて何らかの形でお見舞いをさせていただきたいと考えている」。

資格問題については、「推進機構の記者会見で内容は既に業界紙で報告されているからご存じの方も多いかと思うが、経済産業省のご指導で『職業能力開発促進法』に基づく技能検定制度を活用して進めていきたいと考えており、後程の推進機構報告の中で詳しく報告をいただきます。技能検定については、時計修理士の資格はあるものの価値があまり高くないという声もある。価値はその制度を如何に有効に活用するかにかかっているものであり、幸い我々の業界には既に確固とした認定眼鏡士制度があり、これをベースに他の業界には類を見ない内容の濃い技能検定になると期待している」。本日は決算理事会なので、最後まで慎重審議をお願いします。

### 【審議事項】

#### 議題1. 第6回通常総会開催について

①総会の日程、会場、議題、講演会について／豊福総務部長から、当日配布資料に基づき、第6回通常総会の日程、会場、議題、講演会の内容について説明した。議長は、この内容についてはご異議がないと思われるので、ご確認いただきたいとした。

②平成27年度事業報告及び収支決算、監査報告について／豊福総務部長から事前送付資料に基づいて平成27年度事業報告を、中島財務部長から事前配布資料に基づいて平成27年度決算報告を、岡野監事が監査報告を行った。議長は平成27年度事業報告及び収支決算について意見、質疑を求めたところ、以下の質疑が行われた。

(意見) 貸借対照表の未収金が280万円増えているが、回収できる見込みがあるのか。

(回答) 中身はコンビニ収納のタイム・ラグ分とオプトメトリック協会の分なので、完全に回収できるものである。未回収の会費などは元々計上していない。議長が、会計報告の様式を公益法人会計の様式に統合すべきかどうかについて、公益事業区分毎の説明を1枚加える従来の形式で継続したいと考えたと述べた上で、他に意見がないことを確認し、平成27年度事業報告、収支決算は全員の拍手で承認された。

③理事・監事選任の件／豊福総務部長から、当日配布資料に基づき提案内容について説明した。議長が、理事については10ブロックから各2名ずつ推薦を受け、学校関係から3名、女性枠を2名の合計25名の構成となっていると説明し、このリストに沿って選挙管理委員会のもとで選挙を実施し、結果を総会で報告することになる、とした。



司会を務める鈴木理事



説明する豊福総務部長



説明する中島財務部長



監査報告する岡野監事

## 【報告事項】

(1) 眼鏡技術者国家資格推進機構の最近の動き／岡本理事推進機構代表幹事代行から、当日配布資料に基づき報告。今年1月6日の推進機構臨時正副代表幹事会で、厚生労働省所管の「職業能力開発促進法」に基づく技能検定制度の活用を決定し、経済産業省から要請された業界全体としての制度参画の確認や、視力検査の取扱に関する眼科医側との調整を図ってきた。眼科医会と眼鏡業界の間にある壁を低くする活動の第2弾として、「加齢による目の病気」のパンフレットを発行するが、眼科の権威である所先生にご執筆いただくことができ、眼科医として累進屈折力レンズにも言及いただくなど、眼鏡業界にも配慮のある内容となっている。



報告する岡本理事

(2) 組織活性化特別委員会報告／平岩組織活性化特別委員長から、口頭で報告。新年度のセミナーの計画は、青年・女性層にアピールする内容としてファッション性の高い内容で、講師にボストンクラブのチーフデザイナーである笠島博信氏をむかえ、来年2月頃に東京、愛知、大阪の3地区で講習会を実施する予定。来年度の代議員改選に当たっては支部での青年・女性層の積極的な参画をお願いする。またブロック会議自体を各支部長間の意見交換の場だけではなく、青年層・女性層の意見交換、意見反映の場とし、各支部・ブロックの活動を活性化していただきたい。



報告する平岩理事

(3) ホームページ更新報告、及び熊本地震報告／福田 HP プロジェクトリーダーから、当日配布資料に基づき報告。ホームページ更新については、更新前後でアクセス数が2,000 → 4,530 回(月)と大幅に増加。また問い合わせ数も7 → 26 件(月)と増加しており、見やすく利便性の高いものになっていることが分かる。次に、熊本地震について、本協会として熊本県支部長から会員50人に対して送った被害状況調査アンケートについて21人から回答が届いたが、その内9人が一部損壊、12人が被害無しであった。日眼協の資料には他の団体からの情報が記載されているが、日眼協としてどのように対応かは未決定。

(意見) ホームページ変更において事務局で事務処理の一元化と業務の共有化とはどういう意味か。(回答) 従来はホームページ内容の追加、変更、削除が前任者に一任されており、事務局で直接ホームページを操作することはできなかったが、今回の変更により介在者なく事務局で直接ホームページを操作する体制とした。



報告する福田 HP プロジェクトリーダー

(4) その他／①会員数並びに認定眼鏡士登録者数・会員数5,806人、認定眼鏡士登録者7,264人(平成28年4月末現在)②今後の会議日程③通信販売警告の件。豊福総務部長から、①、②、③について当日配付資料に基づき報告した。

(意見) 今年度の普及啓蒙リーフレットについて説明していただきたい。(回答) 辻広報部長から、教育特集号には今年度作成の「メガネのお手入れ」と昨年の「私のメガネは認定眼鏡士に作ってもらいました」。推進機構発行のリーフレット「加齢による目の病気」、更に推進機構ニュースNo.9を同封するので、ご活用いただきたい。本協会のリーフレットは若干在庫を持っているので、講習会やイベント関係で必要ならば事務局の方へ早めに予約を願いたい。

(意見) 支部予算の中から支部会員に配布したい場合の単価はいくらか。(回答) 在庫から出せるものは無償配布としている。



意見に答える辻広報部長

(意見) 昨年「学童のメガネ」は眼科医院に置いてもらいました。今年の「加齢による目の病気」のリーフレットも昨年同様眼科医院に置かせてもらっても構わないか。(回答) 勿論構わない、そうしていただけると有り難い。特に所先生が執筆されているので、眼科医には受け入れやすい内容であると思われる。但し推進機構のリーフレットは事務局に在庫はないので、推進機構に発注してください。

# 私の器械近視について

## — 各レフラクトメーター値の比較とホロプターおよび省スペース型視力表の検討 —

日本眼鏡技術専門学校 米田 明日香

指導 桂 孝次郎

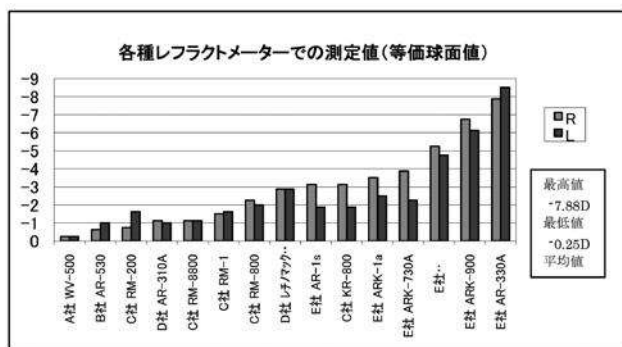
### <はじめに>

私は強い器械近視を持っています。視力検査の矯正値では左右とも等価球面値が S-0.25D 前後のほとんど正視に近いのですが、なぜかレフラクトメーターの測定値は、S-4.00D ~ -5.00D、強いときは S-8.50D まで出たことがありました。私自身、ほぼ正視で日常遠方視や視力表などが見にくいと感じたことはありませんし、眼位異常ありません。またよく眼鏡学校の先生方からレフラクトメーターの測定時に「力が入っているか？」と聞かれるのですが、私は無意識で力を入れていると感じたことはまったくありません。そこで私の器械近視について調べたいと考えました。

### ◎器械近視が強く出る

レフラクトメーターは何か

いろいろなレフラクトメーターで、一番器械近視の出方について 5 社、15 種類について調べました。



グラフ 1

その結果(グラフ 1)、両眼開放式の A 社のレフラクトメーター WV-500 が一番器械近視が出ませんでした。この A 社のレフラクトメーターだけが、遠方視した状態での両眼開放で測定できました。

### ◎私の器械近視は何に起因しているのか

まずベースになる視力測定の矯正値は、±



写真 1

0.50 のツインクロスレンズで等価球面を出し、クロスシリンダーで乱視補正をし、+ 0.25 レンズとレッドグリーンテストで、最大視力が出る最大のプラス側の値を出す方法(おもに桂先生の視力矯正法)で行いました(写真 1)。

以下、この値を基本に各測定値を比較することになります(表 1)。

省スペース型視力表とホロプターに少し器械近視が見られました。この表では視力測定方法の問題と視力表の問題が混在しているので分けて検討します。

### A. 視力測定の方法の問題について

ホロプターでは器械近視が等価球面値で S-050D 強く出ることがわかりました(表 2)。

### B. 何故ホロプターで器械近視が出るのか?

<ホロプターの測定「径」の問題についての実験>

普通の検眼枠は 36mm に対して、ホロプターは 20mm という小さい口径です。測定径を 20mm にしたホロプターと同じ白い径を作成し、検眼枠で実験をすることにしました。

結果) ホロプターのような器械近視は見られませんでした。

<ホロプターの測定の「長さ」の問題についての実験>

ホロプターのレンズソケットが約 6 cm あり、その覗き込み「長さ」が関係しているのではないかと

| 視力測定  | 5 m<br>(桂) |       | レチノスコープ<br>(梅岡) |       | ホロプター<br>(RT-600)<br>5 m |       | 省スペース型<br>視力表<br>(SSC-301)<br>(空間設置) |       | 省スペース型<br>視力表<br>(SSC-301)<br>(壁面設置) |       | ホロプター<br>(RT-600)<br>+ 省スペース型 |       |
|-------|------------|-------|-----------------|-------|--------------------------|-------|--------------------------------------|-------|--------------------------------------|-------|-------------------------------|-------|
|       | R          | L     | R               | L     | R                        | L     | R                                    | L     | R                                    | L     | R                             | L     |
| S     | -0.25      | -0.25 | -0.25           | 0.00  | -0.75                    | -0.75 | -0.25                                | 0.00  | -0.25                                | -0.25 | -0.75                         | -1.00 |
| C     | -0.25      | 0.00  | -0.25           | -0.25 | -0.25                    | -0.25 | -0.25                                | -0.25 | -0.25                                | -0.25 | -0.25                         | 0.00  |
| Ax    | 90         |       | 90              | 90    | 90                       | 90    | 90                                   | 180   | 90                                   | 45    | 90                            |       |
| 等価球面值 | -0.38      | -0.25 | -0.38           | -0.13 | -0.88                    | -0.88 | -0.38                                | -0.13 | -0.38                                | -0.38 | -0.88                         | -1.00 |

表 1

考えました。そこで、6 cm の筒状の覗き込み器を作成し、実験することにしました。

| 視力測定  | 検眼枠での<br>測定値<br>(5m)<br>(桂) |       | レチノスコープ<br>の計測値<br>(梅岡) |       | ホロプターでの<br>測定値<br>(NIDEK RT-600)<br>5 m |       |
|-------|-----------------------------|-------|-------------------------|-------|-----------------------------------------|-------|
|       | R                           | L     | R                       | L     | R                                       | L     |
| S     | -0.25                       | -0.25 | -0.25                   | 0.00  | -0.75                                   | -0.75 |
| C     | -0.25                       | 0.00  | -0.25                   | -0.25 | -0.25                                   | -0.25 |
| Ax    | 90                          |       | 90                      | 90    | 90                                      | 90    |
| 等価球面值 | -0.38                       | -0.25 | -0.38                   | -0.13 | -0.88                                   | -0.88 |

表 2

ホロプターのレンズソケットと長さを合わせて、6 cm の筒状の覗き込み器を作成し、実験しました（写真 2）。



写真 2

結果）ホロプターと同じ S-0.50D の器械近視が出ることがわかりました。

### C. 箱の中を覗き込むという

省スペース型視力表に問題はないのか？

壁にくっつけた「壁面設置」で検査、壁から離れた「空間設置」で検査。

省スペース型視力測定と普通の視力測定とは大差はなかったのですが、省スペース型は箱の中をのぞき込む形の遠方視表が遠くにあるため、設置する場所を変えて、壁にくっつけた「壁面設置」と、壁から離れた「空間設置」とでどう変わるかの実験をし

ました。

結果）若干「空間設置」のほうが+側にでると言う結果になりました（表 3）。

これについては「距離的のぞき込み」の奥行き感

| 視力測定  | 5 m<br>(桂) |       | 省スペース型視力表  |            | 省スペース型視力表  |            |
|-------|------------|-------|------------|------------|------------|------------|
|       |            |       | NIDEK      | SSC-301    | NIDEK      | SSC-301    |
|       |            |       | 1 m (空間設置) | 1 m (壁面設置) | 1 m (空間設置) | 1 m (壁面設置) |
|       | R          | L     | R          | L          | R          | L          |
| S     | -0.25      | -0.25 | -0.25      | 0.00       | -0.25      | -0.25      |
| C     | -0.25      | 0.00  | -0.25      | -0.25      | -0.25      | -0.25      |
| Ax    | 90         |       | 90         | 180        | 90         | 45         |
| 等価球面值 | -0.38      | -0.25 | -0.38      | -0.13      | -0.38      | -0.38      |

表 3

が、少し心理的に影響したのではと考えています。

### <まとめ>

1. 私はほぼ正視、眼位ズレなしですが、レフラクトメーターの器械近視が強く出ます。今回、5 社 15 種類のレフラクトメーターを調べた結果、強いときは S-8.50D、平均値で S-3.75D と出ました。器械近視が出ないのは A 社の両眼開放型のレフラクトメーター WV-500 とレチノスコープであることがわかりました。

2. ホロプターと普通の検眼枠では、ホロプターのほうが少し器械近視が出る。これについては桂先生が以前に報告された結果（桂、1984）と同じ結果であった。測定するときの「測定径」ではなく、「測定長」（のぞき込みの長さ）に原因があることが今回の実験でわかった。

3. 私の器械近視が何に起因しているのかは、おもに器械的要因が影響していることがわかった。

4. 今回の実験で「のぞき込み近視」があることがわかったが、測定時に暗くなるという視野の明るさ（夜間近視等）も関係しているかもしれないので、今後は瞳孔径と関係して追求してみたいと考えます。

# 深視力に影響を及ぼす 乱視の補正状態についての考察

キクチ眼鏡専門学校 中島 功人

指導 伊藤 克也

## 要 約

視力が充分でない場合、深視力が低下することは既に研究されている。精度の高い深視力を得るには視力は絶対条件であるといえる。視力が充分でない場合考えられる要因は屈折異常や透光体、網膜、視神経の疾患などがあげられる。また、より高い精度の深視力を得るためには視力だけでなく、同時視、融像、立体視、眼球運動などの両眼視機能が正常であることが必要とされる。本研究では乱視未補正の深視力への影響について考察するため、眼疾患における視力不良がなく補正視力が良好で両眼視機能が正常な被検者に協力してもらった。

この三桿は細い縦長であるため乱視の種類によって見え方が異なると考えた。単性近視性の直乱視の場合、網膜では垂直方向のみぼやけるため、三桿の縦ラインは比較的鮮明に見えるはずである。一方、単性近視性の倒乱視の場合、網膜では水平方向のみぼやけとなり、三桿の縦ラインは判断しにくくなるはずである。つまり単性近視性の状態であれば、直乱視の方が深視力への影響が少ないと予測される。

本研究では、仮枠で屈折異常を完全補正した状態での深視力と、そこにプラス円柱レンズを加えて人工的に乱視を作り出した状態での深視力を比較し、乱視の種類や程度がどの程度深視力に影響を及ぼすか調べてみた。

その結果、直乱視が深視力に及ぼす影響よりも斜乱視、倒乱視が深視力に及ぼす影響の方がより顕著にあらわれた。

## 実験結果

16 人の被検者の完全屈折状態及び各単性乱視状態での測定結果平均値及び標準偏差を表 1、表 2 に示す。なお数値は固定桿から移動桿までの距離の絶

対値で単位は mm である。

表 1. 被検者 6 名の完全補正状態での測定平均値及び標準偏差

| 被検者  | A.I  | S.K  | T.H  | M.H  | K.H  | D.M  |
|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均値  | 3.9  | 4.5  | 4.9  | 4    | 6.8  | 7.9  |
| 標準偏差 | 2.42 | 2.55 | 3.64 | 2.63 | 4.32 | 4.93 |

表 2. 被検者 6 名の各単性近視性乱視状態での測定平均値及び標準偏差

|         | 被検者  | A.I   | S.K  | T.H   | M.H   | K.H   | D.M   |
|---------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|
| <0.50D> | 平均値  | 11.6  | 6.9  | 4.9   | 6.5   | 9.7   | 6.8   |
| 直乱視     | 標準偏差 | 7.35  | 5.67 | 3.07  | 5.64  | 7.07  | 6.22  |
| <0.50D> | 平均値  | 8.2   | 9.6  | 5.6   | 4.5   | 6.9   | 11.8  |
| 倒乱視     | 標準偏差 | 8.92  | 5.91 | 3.31  | 4.40  | 8.19  | 6.44  |
| <0.50D> | 平均値  | 8     | 15.6 | 16.2  | 12.7  | 31.4  | 18.8  |
| 斜乱視     | 標準偏差 | 6.07  | 7.73 | 11.76 | 6.46  | 15.27 | 9.21  |
| <1.00D> | 平均値  | 8.2   | 5.2  | 7.4   | 7.1   | 12.6  | 18.1  |
| 直乱視     | 標準偏差 | 8.48  | 3.08 | 5.62  | 4.12  | 7.81  | 13.62 |
| <1.00D> | 平均値  | 27.6  | 14   | 20.1  | 12.6  | 16.7  | 11.4  |
| 倒乱視     | 標準偏差 | 20.88 | 6.50 | 16.13 | 11.21 | 9.88  | 7.60  |
| <1.00D> | 平均値  | 39.8  | 19.5 | 24.5  | 14.8  | 30.2  | 23.6  |
| 斜乱視     | 標準偏差 | 24.66 | 9.90 | 13.67 | 11.94 | 14.63 | 19.42 |
| <1.50D> | 平均値  | 7.1   | 7    | 8.4   | 11    | 12.5  | 7.9   |
| 直乱視     | 標準偏差 | 3.93  | 3.77 | 4.12  | 7.69  | 7.69  | 4.84  |
| <1.50D> | 平均値  | 39    | 19.2 | 13.5  | 16.9  | 37.6  | 14.7  |
| 倒乱視     | 標準偏差 | 27.13 | 8.04 | 6.55  | 8.72  | 15.88 | 11.73 |
| <1.50D> | 平均値  | 30.6  | 20.3 | 46.6  | 18.6  | 30.2  | 28.5  |
| 斜乱視     | 標準偏差 | 20.26 | 9.99 | 17.68 | 10.44 | 12.87 | 17.46 |

そして次の項目について、有意水準 5% で深視力測定値に差があるかどうか比較検討してみた。なお比較には Welch - t 検定を用いた。

- (1) 完全補正状態と単性近視性直乱視の状態
- (2) 完全補正状態と単性近視性倒乱視の状態
- (3) 完全補正状態と単性近視性斜乱視の状態
- (4) 単性近視性倒乱視状態と等価球面補正状態
- (5) 単性近視性斜乱視状態と等価球面補正状態

完全補正状態と単性近視性直乱視の状態との比較に関して、1.00D でも 1 人、1.50D では 3 人が完全

補正状態よりも、直乱視の未補正状態のほうが深視力の低下が有意に認められた。

完全補正状態と単性近視性倒乱視状態との比較に関して、1.00Dでは5人、1.50Dでも5人が完全補正状態よりも、倒乱視の未補正状態のほうが深視力の低下が有意に認められた。

完全補正状態と単性近視性斜乱視状態との比較に関して、どの未補正の量でも、完全補正状態よりも斜乱視（左右で乱視軸が直交）の未補正状態のほうが深視力の低下が有意に認められた。

更に自動車二種免許及び大型免許取得及び更新時に必要な深視力検査合格基準の20mmに焦点を当てデータを見てみると、直乱視ではすべての被

検者が20mm以内に収まっていたが、倒乱視では1.00Dで2人、1.50Dで2人、斜乱視（左右で乱視軸が直交）では1.00D4人、1.50Dで5人が20mm以上の平均値であった。

単性近視性倒乱視状態と倒乱視等価球面值補正状態との比較に関して、0.50Dの倒乱視では両者に有意差は認められなかったが、1.00Dの倒乱視では単性近視性状態のほうが、深視力の低下が有意に認められた。

単性近視性斜乱視（左右で乱視軸が直交）状態と等価球面值補正状態との比較に関して、0.50Dでも、1.00Dでも、単性近視性状態のほうが、深視力の低下が有意に認められた。

## 消費者の眼鏡相談

消費者からのご相談・お問い合わせは、各地域の消費生活センターを通じて、本協会消費者委員会（亀井正美委員長）から同センターに回答しています。

### 愛知県西三河消費生活相談室（3月29日）

**相談内容** 販社にレンズ交換を依頼したところ、フレームを折られてしまったが、販社はあらかじめ「フレームの切断がありうることを了承する」と一筆取っているので補償はできないとの事。折れたのは鼈甲の高級フレームなので、修理にも12～20万円相当かかる見込みで、トラブルになっている。

1. この様なことは技術者の過失と考えられるのでしょうか。
2. それはフレームの材質や消耗度に起因するのか。一般的にどの程度の割合で起こりうるリスクか。

**回答** 鼈甲フレームは製造されて5年程度の年数がたてば折れるリスクは増します。自然素材であるがゆえに湿度や乾燥により素材の状態も変化します。

このような条件を考えながらレンズ入れやフレームの調整をしなければならないが、ワシントン条約により鼈甲の取り扱いが非常に少なくなり、眼鏡技術者の中でも鼈甲を取り扱いきれない人も増えてきました。一筆取るお店ですから、慎重にレンズ交換をしたと思いますが、その時の条件が悪かったかもしれません。

**答** 「技量にかかわらず、一定割合で起こりうるリスク」であれば技量は不要ですが、私たち本協会の会員は、日々研鑽を重ねております。当然、技量が低ければリスクは増しますが、鼈甲枠の質の問題があります。あまり品質がよくないものもあれば、経年変化で鼈甲の劣化が起きているものもあります。

技量の高低と鼈甲の質の良否との組み合わせですから、常に一定割合で起こるわけではありません。

### 堺市立消費生活センター（5月20日）

**相談内容** 病院での処方箋をもって眼鏡店に来店したが、そこで測定した数値の方が見やすかった。店からもう一度病院で処方箋を貰ってくるように言われたが、その時に眼鏡を作ってほしかった。

質問／処方箋がない場合は眼鏡店で測定し作ることになると思いますが、処方箋が優先になり、今回のような場合は、再度処方箋が必要になるのでしょうか。店により対応が違うように思いますが、この様な相談にはどのように回答すればよいのでしょうか。また根拠とするものが有るのでしょうか。

**回答** 医師が発行する眼鏡処方箋は、「眼鏡製作指示書」というべき書面で、それを尊重し、指示書通りに眼鏡を作るという慣行が眼科医と眼鏡店との間で成立しています。薬の処方箋のような、明確な法律の条文に基づくものではありませんが、眼科医と眼鏡店との信頼関係に基づく慣行です。

眼鏡処方箋の度数をテストレンズで装用していただき、良否をお客様に確認するのが一般的です。そのうえで、何か問題がある時は、医師の指示を仰ぐということになります。

今回のお店は、対応は間違っておりません。面倒ではありますが再度眼科医の再度受診をお奨めします。

## 「これからの視生活の可能性」で討論

本協会東京都支部と共催で実施

日本眼鏡学会（畑田豊彦理事長）ならびに本協会東京都支部は、第20回年次セミナーを5月25日、東京都千代田区の連合会館で開催した。セミナーには日本眼鏡学会会員、メーカー、小売店、眼鏡専門学校生、本協会の会員ら約210人が参加、眼鏡技術者による意欲的な討論の場となった。大会長は林光久理事（東京眼鏡専門学校校長）が務めた。



あいさつする林光久大会長（上）と会場

開会にあたり林氏が「今回のメインテーマは『これからの視生活の可能性』。午前中は一般口演6題、昼はニコン・エシロール、HOYA ビジョンケアカンパニーの2社の協力で学会としては2度目のランチョンセミナーを開催する。並行してポスター・製品発表を別会場で実施する。午後の特別講演は、メインテーマに関連して、さまざまな視覚やビジュアルに関わる機器をどのように活用するかといった内容の話をさせていただく。今日の内容を、日々の業務に活かしてほしい」と述べた。

第1部研究発表は、座長に畑田理事長、東京眼鏡専門学校の長戸栄卓専任講師を迎え、「提示視野から見た若年者と高齢者の色と方向の視認性」、「視覚認知が見え方や見る活動に与える影響」などを演題に、専門学校の卒業生、業界関係者らによる6題の口演が行なわれた。ランチョンセミナーでは、(株)ニコン・エシロールが「新しいコーティング」のタイトルで、3つのハイエンドコーティング製品を紹介。HOYA ビジョンケアカンパニーは「HOYA アイプロテクションレンズについて」の演題で、紫外線をカットし可視光線の短波長光の透過を抑制する機能を付加した製品の特性を説明した。

会場隣室のポスター・製品展示コーナーには伊藤光学工業(株)、(株)シギヤ精機製作所、セイコーアイウェア(株)、東海光学(株)、(株)トプコンのメーカー5社が、最新の累進屈折力レンズや防眩レンズ、オートレフケラトメータの研究成果を紹介した。

第2部は、東京眼鏡専門学校の森峰生主任専任講師を座長に迎え、メインテーマに関連した3題の特別講演が行なわれた。(株)トプコン技術本部技術企画部の秋葉正博氏は「OCT（眼底三次元画像解析）による眼科診断の発展と今後の可能性」をテーマに講演。眼科臨床で広く用いられるOCTが人間ドックや眼科診断でも活用されるようになった事例を紹介し「第二世代のOCT装置が眼科診断以外の分野での活動を示しており、今後機能を向上させ、普及することを期待する」とした。

次に、(株)ニコン映像事業部開発統括部第一開発部の岩根透氏は「ライトフィールド技術と眼鏡関連装置への応用」のタイトルで、三次元の画像を二次元面上に記録するライトフィールド技術の仕組みやタブレット検眼への展開などを説明。「ライトフィールド技術は、眼鏡眼科装置への応用も可能となると考えられる。新たな視力測定方法が提案されてくるのではないかと考える」とし、今後の展開について言及した。

続いて千葉大学工学部の桑山哲郎氏が「機能性眼鏡 HMD（ヘッドマウントディスプレイ）」の演題でHMDの用語や分類、幅広い用途や光学部品・光学技術、使用例や今後の可能性を詳説した。

最後に、来年の年次セミナーの大会長を務める伊藤克也理事（キクチ眼鏡専門学校校長）から「多くの学生が出席されとてもうれしい。学生はこれからの眼鏡業界を背負っていく宝物。眼は生活者にとって大事なもので、さまざまな所で多くの人に感謝をもらえる分野だということが今日のセミナーでより明らかになったと思う。これからの勉強の意欲につなげてほしい。来年度の年次セミナーは名古屋で行なう。期待に沿えるような学会にしていきたい」とアピールがあり閉会した。

## 東京・関東

総会当日の6月15日に東京・関東ブロック会議がKKRホテル東京で、片山ブロック長以下各支部の代表者、本部からは津田会長以下2名の合計12名の出席で開催された。

片山ブロック長は挨拶の中で、推進機構を中心とする技能検定制度活用の方針について、また第2弾となる「加齢による目の病気」リーフレットも活用し、活動の盛り上げに協力をお願いした。議事としては、各支部の活動報告、生涯教育の確認、また本部事務局からはホームページ・リニューアルや支部予算の確実な実行等の報告があった。眼鏡技術者国家資格推進活動については、津田会長が技能検定制度の活用に至った経緯の詳細な報告が行われ、今後業界全体としてこれを盛り上げていくことの重要性を指摘した。

(写真は東京・関東ブロック会議)



## 東 北

7月19日に東北ブロック会議が仙台市のホテルメトロポリタンで昼食会の後、開催された。出席は、相澤ブロック長以下支部の関係者、本部からは津田会長、亀井副会長兼会員組織部長以下3名の合計12名。

議事としては、①眼鏡技術者国家資格推進機構の最近の動向について津田会長及び相澤ブロック長から詳細に報告した後に各支部と種々意見交換、②平成28年度のリーフレットやミニカレンダーなどのPR活動について紹介、またホームページのリニューアルなどについて報告、③本部事務局からの連絡事項として支部予算の確実な実行のお願い、④平成28年度教育事業について教育特集号に基づき確認を行った。(写真は東北ブロック会議)



## 中 国

8月23日に中国ブロック会議がホテルグランヴィア岡山で昼食会の後、辻ブロック長以下各支部長、本部からは津田会長、亀井副会長兼会員組織部長以下3名の合計8名の出席で開催された。

挨拶の中で、辻ブロック長は岡山地区の景気動向や日眼連の状況などを、津田会長は国家資格推進の状況を詳細に、亀井副会長は会員数減少の動向などについて報告した。議事としては、横山支部長から青年・女性部主催のセミナーの報告など、辻ブロック長から認定眼鏡士制度の普及啓蒙活動、各支部からは生涯教育開催やPR活動、また本部事務局からは支部予算の実行について等の報告があった。(写真は中国ブロック会議)



6月22日、午前11時から協会事務局で講師会を開き、28年度の生涯教育講習会のリハーサルを行った。担当の講師13名が参加し、内容のチェックや実際と同様にプロジェクターを使って統一した講義指導ができるように意見交換を行った。

今年度の生涯教育は、「視機能検査の実施法（その2）」（90分）、「眼科診断機器の進歩」（60分）、「フィッティング調整ービデオ計測システムを活かす光学的調整ー」（30分）がテーマで11月下旬まで全国で順次実施している。

（写真は生涯教育のリハーサル）



## 組織活性化特別委員会

8月30日、午後3時から名古屋市の安保ホールで委員会を開催した。出席は9名。

議事では、まず始めに委員会の再編成として、委員長に横山武志、副委員長に杉本佳菜子、青年部会長に山崎親一、女性部会長に吉野紀子、新委員として小野明夫（神奈川）、下山貴弘（愛知）、平井了（大阪）の各氏を確認した。新参加メンバーもいるので、過去4年間の活動経緯を資料に基づき総括した後、本年度のセミナーの開催、F.B.の運用状況、ピンバッジの理事会への再提案、次回の代議員改選に向けた女性登用などについて議論した。

（写真は組織活性化委員会）



## 事務局から

●認定眼鏡士の有効期限が2017.3.31の方で受講回数が3回になっていない方は、教育特集号を参照していただき講習会または通信講座を受講してください。ご不明な点は、事務局（電話 06-4807-5070）までお問い合わせください。

●会費をまだご入金いただいてない方に、10月はじめに払込票を再送させていただきました。2年度分未納になりますと会員の資格がなくなりますので、お忘れなきようどうぞよろしくお願いいたします。

## 2017年ミニカレンダーをお届けします

昨年も配布いたしましたミニカレンダーを今年も10部ずつお届けいたします。各店でお客様にお渡ししていただくほか、支部でのイベントにもどうぞご活用ください。



## 編集後記

＊ 第6回通常総会で勇退された前副会長兼担当部長三氏には、長期に渡りご指導ご鞭撻を賜り心から厚く御礼申し上げます。

なお、新副会長兼担当部長には、厳しい本協会運営の舵取りに取り組むことになりましたが、後継者の明るい未来のため新風に期待いたしているところであります。

＊ 生きがいや喜びに満ちた人生を築くには、私たちを取り巻く環境条件を改めるだけでなく、各自の心づかいと行いを積極的に改善することが重要です。

＊ 花をめぐるその優しさが、山を歩いていると落ち葉がかさかさとして音を立て、ひときわ美しい紅葉があちこちで見られる。深まりゆく秋の喜び、朝夕はめっきり冷えだし、山の木々も赤や黄色を増し、初冬の風に誘われて舞い散る前の美しさは格別です。

（戦）